

ちいさな証

主人がイエス様と共にいる確信

ゲルスタ・ウェンディ

スイス日本語福音キリスト教会会員



アルツハイマー病で苦しんでいた主人が2018年11月9日に天に召されました。その日の悲しみと忙しさの中で、イエス様との静かなひと時を願い求めました。主を見上げながら、考えと気持ちが少しずつ落ち着き、急に心の中に喜びが湧いてきました。

主人が病気とその苦しみから解放されたことを感謝しました。そして主イエス様の十字架の死と復活によって主人が今、罪、地獄と悪魔の力から完全に自由になったことを何よりも喜びました。今も、主人がイエス様と一緒に天国にいるという確信は私の一番の慰めです。

でもこのような「確信」を本当に持つことができるでしょうか。もちろんそれを願うのは当然ですが、「確信がある」と言うのはずうずうしく聞こえて、高ぶることではないかと思われる人は多いと思います。救われるかどうか、だれもはっきりと知ることはできないではありませんかと。しかし聖書によると、神様は私たちがこの確信を持つことを願っておられます！（1ヨハネ5：10-13）

じゃ、どうしたら救いの確信が持てるのでしょうか。主人がとても良い人間だったからですか。それとも宣教師として努力して、一生神様に忠実に仕えようとしたからですか。違います！聖書によると、私たちの救いは私たちの努力や良い働きや祈りなどに基づきません。唯一の

土台は、イエス様の義と私たちのための完全な犠牲です。自分の不完全さ、自分の罪深さを知っていた主人は神様から救いという素晴らしいプレゼントをいただきました（ローマ6：23）。その後、感謝をもって、イエス様のために生きました。ですから生きていたとき、主人は天国を楽しみにすることが出来たのです。そして今、私たちは彼がイエス様とともにいる確信を持つことができるのです。

救いの確信をまだ持っていない方々が、是非、イエス様がしてくださったことを信じ、喜びで満たされますようにお祈りいたします。

まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです。ヨハネ 5:24

第1ヨハネの手紙 5:10-13



安藤寛之牧師（ミュンヘン日本語教会）と

神の御子を信じる者は、このあかしを自分の心の中に持っています。神を信じない者は、神を偽り者とするのです。神が御子について

あかしされたことを信じないからです。

そのあかしとは、神が私たちに永遠のいのちを与えられたということ、そしてこのいのちが御子のうちにあるということです。

御子を持つ者はいのちを持っており、神の御子を持たない者はいのちを持っていません。私が神の御子の名を信じているあなたがたに対してこれらのことを書いたのは、あなたがたが永遠のいのちを持っていることを、あなたがたによくわからせるためです。

